

平成16年7月28日

韓国の大手清涼飲料メーカー「ヘテ飲料」を傘下に
韓国・清涼飲料市場へ本格参入 東アジア3大市場での飲料事業を積極化

アサヒビール株式会社

アサヒビール株式会社は、韓国・清涼飲料業界大手のヘテ飲料株式会社 [HAITAI BEVERAGE CO., LTD] (本社 ソウル、社長 鄭熙鍊) への出資比率を引上げ子会社化することでその他の株主や会社側と合意し、合意内容に沿って同社の株式の追加取得を行いました。これにより、アサヒビール(株)は、ヘテ飲料(株)の41%株式を保有する筆頭株主となるとともに実質支配権を握り、同社は連結子会社となります。

アサヒビール(株)は、2000年にヘテ飲料(株)の20%株式を取得しました。これまで、株主として経営参加してきましたが、マーケットが今後も安定的に成長が期待される中、ヘテ飲料(株)の事業の成長が見込めると判断し、韓国・清涼飲料市場に本格参入するものです。

ヘテ飲料(株)は、2003年の韓国・清涼飲料市場において約13%のシェアをもつ、韓国第3位の総合清涼飲料メーカーです。果汁飲料でカテゴリーシェア3割強を保有しているほか、炭酸飲料、茶・コーヒー飲料、ミネラルウォーターなど、幅広いカテゴリーにわたる商品ラインアップをもち、韓国国内に3工場、販売拠点57ヶ所を有しています。2003年の売上高は3,518億ウォン(約352億円)となっています。

同社は、1973年にヘテ・グループの清涼飲料製造・販売会社として設立されました。経済発展に伴う清涼飲料市場の成長のなかで、韓国で特に構成比の高い果汁飲料分野で強いブランド力を発揮し業績を拡大させましたが、1997年末から1998年にかけての金融危機の影響によるヘテ・グループの経営破綻から、グループ外部へ事業売却され、2000年以降、新生・ヘテ飲料(株)として経営強化を進めてきました。近年の市場シェアは13%強で推移しています。

2003年の韓国清涼飲料市場は、生産者価格で約33,000億ウォン程度(約3,300億円)と見込まれ、10年前と比べると1.5倍強に拡大しています。金融危機による不況や冷夏など天候不順の影響を受け減少した年もありましたが、市場はほぼ一貫して増加基調にあり、今後も安定的に成長するものと期待されます。

カテゴリー別にみると、炭酸飲料が総市場の3分の1程度、果汁飲料が同4分の1程度、ミネラルウォーターなど飲料水が8%程度で、この3カテゴリーで市場の3分の2を占めています。茶系飲料、機能性飲料は未だ大きなカテゴリーではないものの近年拡大傾向に

あり、日本市場の傾向と同様に、今後、炭酸飲料などから低糖系飲料へのシフトやカテゴリーの多様化が進むことが見込まれています。

アサヒビール㈱は、ヘテ飲料㈱に一部出資を行って以降、持分法適用会社として非常勤取締役を派遣してきましたが、同社の経営強化策が順調に進み業況が安定してきたことや、韓国・清涼飲料市場が今後も拡大が見込まれることから、同社の株式を追加取得し、同市場に本格参入することにしたものです。

追加取得については、既存株主から株式の譲渡を受けます。追加取得費用は約26億円です。株式の追加取得に併せ、取締役会の過半数を占めることになります。

ヘテ飲料㈱を子会社化したうえで、アサヒビール㈱は、グループで保有する商品開発、マーケティング、生産管理などの清涼飲料事業の技術・ノウハウを提供するなど、ヘテ飲料㈱のいっそうの経営強化を進めます。特に、多様化が進むと見込まれる韓国市場に向け、日本市場で近年伸びている茶系飲料や機能性飲料などを積極的に提案し、市場全体を上回る売上の拡大を目指していきます。

アサヒビール㈱では、本年4月に、中国4位の清涼飲料メーカーである康師傅飲品控股有限公司の50%株式を伊藤忠商事株式会社と共同で取得し、経営参加しました。今回のヘテ飲料㈱の実質支配権取得により、日本を加えた東アジアの3大清涼飲料市場で事業展開を行うことになります。

以上